

令和5年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和5年6月23日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 和名：ナスコナカイガラムシ
学名：*Phenacoccus solani* Ferris
- 2 発生作物 トマト
- 3 発生経過
 - (1) 令和5年5月中旬、静岡県西部地域の施設栽培のトマトにおいて、コナカイガラムシ類が株に寄生していることが確認された（写真1）。
 - (2) 採集された個体を、農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に同定依頼した結果、ナスコナカイガラムシ（*Phenacoccus solani* Ferris）と同定された。
- 4 特徴
 - (1) 分布
本種は北米、中南米に広く分布するほか、寄主植物と共に移出、定着したものがハワイ、ミクロネシア、南アフリカ等で発見されている。
国内では、平成15年に高知県で初めて報告された後、長崎県、愛知県など全国の17府県で発生が確認されている。
 - (2) 加害植物
広食性で、寄生植物は雑草を含むキク科、ナス科、マメ科、アブラナ科等30科に及ぶとされ、野菜類、花き類、観葉植物、果樹類など広範囲の植物を加害する。
国内では施設栽培のピーマン、とうがらし類（甘長とうがらし、ししとう）、なす、きゅうり、すいぜんじな、きく、パンジーで発生が確認されている。
 - (3) 形態及び生態
雌成虫は、長楕円形で体長3～5mm。体色は灰色で、体表は白色粉状の分泌物で覆われる。体周縁のロウ物質の突起は18対あるが、極めて短く目立たない。
雌のみによる単為生殖を行い、雄は知られていない。卵胎生のため、卵のうを形成せず直接産仔する。産仔数は約200とされ、3齢幼虫を経て成虫となり、年間に数世代を繰り返す。
 - (4) 被害
主に葉、莖に寄生し、多発すると果実にも寄生がみられる。成・幼虫の吸汁による生育阻害や、排泄物として甘露を分泌するため、葉や果実にすす症状を引き起こす。
- 5 防除対策
 - (1) 現在、トマトにおいて本種に対する登録農薬はない。
 - (2) ほ場の一部から発生することが多いため、ほ場内をよく観察して早期発見に努め、発生を確認した場合は、拡大を防ぐため寄生部位をすみやかに除去する。除去後は、ほ場外に持ち出し土中に埋めるか、ビニール袋に密閉して処分するなど適切に処理する。
 - (3) 観葉植物や雑草にも寄生するため、施設内への観葉植物等の持ち込みを控え、施設内外の除草を徹底する。

【参考資料】

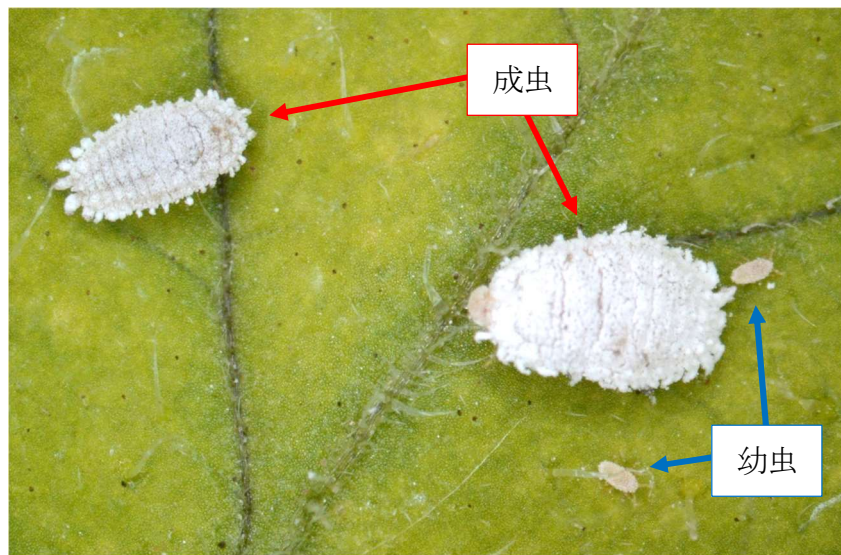


写真1 ナスコナカイガラムシの成幼虫

問い合わせ先： 静岡県病害虫防除所 TEL. 0538-36-1543